

上八万学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ②思考力・判断力・表現力を伸ばすための言語活動の充実
- ③児童の主体的な学びを確かなものにするための、授業展開の工夫や指導の実践

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

評価カードを用いた教員の自己評価や、管理職による授業参観など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が、92.4%だった。前年度の93%に引き続き高い水準で推移している。</p> <p>○前年度「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」達成率は上学年が、79.2%、下学年が85.2%だった。上学年が80%、下学年が83%を目指すという目標をほぼ達成した。</p> <p>○年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができてきている」の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、78.7%で前年度の73.5%を上回り、目標の75%を上回った。</p> <p>●「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」は、達成率は上学年が88.3%、下学年が54.7%だった。上学年は目標の85%を達成したが、下学年が目標の80%を大きく下回った。</p>	<p>○四則計算の確認テストで、正答率9割以上の児童を上学年は80%以上、下学年は85%以上にする。</p> <p>○漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童を上学年は85%、下学年は80%以上にする。</p> <p>○進んで読書に取り組むことができる児童の割合を80%以上にする。</p>	<p>○朝学習の時間で、取り組む内容を曜日ごとに決め、見通しを持って、漢字や計算のドリル学習や小テストに取り組むことができるようにする。</p> <p>○学習する単元と関連する以前の単元を復習する等、系統性を意識して授業を組み立てる。</p> <p>○学習中の単元だけでなく、以前学習した単元や前年度の単元からの宿題も出し、定着を図る。</p> <p>○漢字を学習する際には、とめ・はね・はらいを意識し、丁寧に書くよう指導する。</p> <p>○月曜日の朝学習の時間を読書に設定し、「一人で一冊を15分間」を合い言葉に全校で読書に取り組む。</p> <p>○毎週1回図書室に行き、全員が図書室の本を借りる機会を作る。</p>		<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が、94.9%だった。前年度の92.4%に引き続き高い水準で推移している。</p> <p>○「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」達成率は上学年が、80.5%、下学年が84.3%だった。上学年が80%、下学年が85%を目指すという目標をほぼ達成した。</p> <p>○「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」達成率は上学年が86.0%、下学年が62.9%だった。上学年は目標の85%を達成したが、下学年が目標の80%を大きく下回った。しかし、昨年度よりは、8.2ポイント上昇している。</p> <p>○年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができてきている」の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、74%で、目標の80%を達成することができなかった。</p>	<p>○引き続き、継続的計画的に取り組んでいく。</p> <p>○今年度取り組んだ、惜陰タイムの活用の方法を来年度に引き継ぐとともに、更に惜陰タイムの活用についての研修を進めていく。</p> <p>○漢字学習や小テストの時間を確保したり、宿題の出し方を工夫したりして、漢字の習得ができるようにするとともに、支援の必要な児童への手立てを考えていく。</p> <p>○月曜日の惜陰タイムを来年度も読書タイムに設定し、放送を入れる等して、全校一斉に取り組めるようにする。</p> <p>○学年途中で、同学年で学級文庫の入れ替えをする等、環境を整える。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○積極的に発表したり、自分の考えを理由づけて説明できる児童が増えている。</p> <p>●話を最後まで聞いたり、正しく聞き取ったりできない児童がいる。</p> <p>●場に応じた声の大きさを話したり、自分の考えを言語化することが苦手な児童がいる。</p> <p>●昨年度末の児童アンケートでは、「自分の考えを進んで発表することができてきている」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が77%で、前年度の71%に比べ増加しているが、まだ十分ではない。</p> <p>●主語や述語をとらえて、意味・意図を正しく読みとることができない児童がいる。</p>	<p>○友達の発表や教師の言葉を、最後まで落ち着いて、正しく聞き取ることができる。</p> <p>○相手に伝わるように理由や事例を挙げながら、場に応じた適切な言葉遣いで、進んで自分の考えを話すことができる。</p> <p>○学年に応じた読解力を身に付け、教科書の文や問題文の内容・意図を正しく読み取ることができる。</p>	<p>○聞き方名人・話し方名人の掲示や「発表ナビ」「声のものさし」等を活用し、聞き方・話し方を常時意識づける。</p> <p>○ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする時間や機会を多く取る。</p> <p>○子どもの意見に教師が問い返しをすることで、課題を深く考えたり、発言したりできるようにする。</p> <p>○読書タイム等を通して読書習慣をつけ、語彙力を豊かにし、表現の幅を広げることができるようにする。</p> <p>○新聞等を活用し、大事などところに線を引かせ、要約する力や自分の考えをまとめる力を身に付けさせる。</p>		<p>○短時間でできる活動を取り入れて、話を聞くこととする態度を育てることができた。しかし、話を聞くことができていない児童もいる。</p> <p>○ペアやグループでの話し合いの機会を多く設定することにより、発表が苦手な児童も発表できるようになってきている。</p> <p>○ICTを活用し、写真や図を見せることで発表の意欲を高めたり、分かりやすく説明したりすることができた。</p> <p>○各学年の発達段階に合わせて新聞の活用を工夫することができた。</p>	<p>○聞く力を身に付けるための活動を積極的に取り入れるとともに、これまで以上に聞き方名人の掲示を活用し、常時意識付けを行う。</p> <p>○より効果的なペアやグループでの話し合いの仕方考えるとともに、全体の場での発表の意欲を高めるための手立てを考える。</p> <p>○思考力・判断力・表現力を評価する方法を考え、達成目標を設定する。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○静かに落ち着いて話を聞き、学習規律を守ろうとする雰囲気や育っている。</p> <p>○与えられた課題を真面目に取り組むことができる。</p> <p>○昨年度末の児童アンケートでは、「家庭学習をきちんとしている」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が、91%だった。教師が出す宿題に真面目に取り組んでいる。</p> <p>●困難な課題や苦手な課題に対して、諦めず解決しようとする意欲が低い児童がいる。</p>	<p>○困難な課題に対して、粘り強く取り組むことができる。</p> <p>○学習活動に見通しをもち、めあてをつかみ、自分の考えをもって、話し合い活動などに参加し、主体的に学習することができる。</p> <p>○日々の課題学習を正確に丁寧に言い、個々が工夫して自主学習に取り組むことができる。</p>	<p>○ICTを効果的に活用するとともに、めあてを提示し、「めあて」から「ふり返り」までの授業の流れを大切にしながら、分かりやすい授業を行う。</p> <p>○単元のはじめに、単元計画を提示し、単元で付けるべき力を児童に伝えることで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>○体験活動や出前授業を取り入れたり、ペア活動やグループ活動を効果的に活用したりして、興味関心を高め、自己肯定感を高め、主体的に学習できるようにする。</p> <p>○適切な自主学習ノートを紹介し、週末等に自主学習を促す。様々な機会を捉えて、「家庭学習の手引き」の活用を積極的に行う。</p> <p>○学習規律の定着と共に、共に認め合う学級作りを行う。</p>		<p>○授業のめあてを毎時間提示し、見通しをもって授業に臨むことができたが、振り返りができないことがあった。</p> <p>○その単元を学習することで身に付く力を児童に伝えたことで、見通しをもった学習が可能になった。</p> <p>○異学年交流や出前授業を取り入れ、興味関心を高め、主体的に取り組めるよう工夫できた。</p> <p>○基本的なノートの使い方やまとめ方を提示したり、自主学習のノートを紹介することで、自主学習をする児童が増えた。しかし、家庭学習の習慣がつかない児童も少数だがいる。</p>	<p>○新しくなったタブレットの更なる活用方法の研修を進め、積極的に授業に活用する。</p> <p>○授業の振り返りの仕方を単元や教科の特性に合わせて、計画的に行う。</p> <p>○学習意欲が低下している児童に対する、支援方法を考える。</p> <p>○体験活動や出前授業を引き続き続けていくとともに、活動を計画的に行い、児童が主体的に探究できる時間を大切にしていける。</p> <p>○家庭学習の習慣がつかうよう、保護者との連携を続けていく。</p> <p>○自主学習の重要性を意識できるよう、振り返る機会を取る。</p>